

市内活動グループ訪問記



そがみはら若者サポートステーションの活動を取材しました！



相模原にも開花宣言が出された翌日、市民桜まつりを1週間後に控えた3月31日(日)けやき会館2階会議室で、『そがみはら若者サポートステーション(若サポ)』の皆さんの様子を取材させていただきました。若サポさんには、ぼらんていあ通信の発送作業やほかほかふれあいフェスタでのボランティアなどで大変お世話になっています。

チーム絆さんのメンバーは特別支援学校現役生や卒業生、保護者の皆さんです。それぞれ病気や障がいがありますが皆で一歩の踊りを完成させたいという思いから始めたこの活動です。

若サポさんは、働くことや自立に悩む若者のための支援機関です。「自分づくり」と「仕事探し」を応援している仲間と出会い学び合いを通じて、自分の生き方、働き方を見つけていくをサポートしています。

ボランティア協会は6つの委員会を設置してさまざまな活動を行っています。その中の一つ『映像企画実行委員会』は協会活動やボランティア仲間の紹介、市内の活動団体の紹介動画などを広く市民の皆様にお知らせするため、オリジナルの動画制作活動を行っています。今回はチーム絆さんの活動を若サポさんと協働で映像化



っています。

当日は若サポさんから3名、ボラ協からは4名で回りました。絆さんのメンバーは指導者も含め12名で、皆さん本番ながらの衣装で、赤い鳴子扇を持っています。男性はウイंक顔のお茶目なひよっこ顔のお面をつけています。音楽のリズムに合わせて練習が始まり、リズムカルに体を動かします。会議室は十分なスペースはとれず、様子を撮影する人は、踊り手の動きのじやまをしないように場所を考えてカメラを構えています。カメラを、頭上から、胸の位置から、床に設置したりと色々な角度から撮影していました。たえず胸よりの位置でカメラを操作し続けることはとても大変そう。たまに手をぶらぶら動かす様子も見られました。休憩中も撮影を続けています。カメラが回っている間も動揺することなく心に踊り続ける絆さんのメンバーの集中力が凄かったです。リズムカルな音楽と動きを見ているとこちらも熱気が移ったのか汗を拭く場面でも。



こちらも熱気が移ったのか汗を拭く場面でも。

練習後、絆さんの代表 佐藤さんや坂場さん、熊田さんに取材が入ることについてメンバーの皆さんの様子はいかがでしたかとお話を伺って、「前もってきちんと説明すれば大丈夫です。子供達は変化も大好きで楽しんでます。難しい振り付けはハードルが高いので、子供たちに合わせた振り付けにしています。」との声です。

若サポの皆さんに感想と苦労についてお聞きしました。スタッフの清水さんは「前回と同様、皆さんがとっても楽しそうに踊っているのが素敵で元気をいただきました。今年の桜まつりでは満開の桜のもと、皆さんの演舞が見られるのが楽しみで、印象に残る画像が撮れればいいなと思う。素人なのでここまで絆さんの姿が撮れたかなと思います」。利用者さんの村田さんは「スマホで動画を撮るのは慣れていなく、前回は画面が暗くなってしまったが、調べて今回は上手く撮れるようになったかな。皆さん楽しそうに踊っているから、ちゃんと撮ってあげたいと思った。撮影中は力が入って腕がガチガチになったり指がつつたりしたが大丈夫です。また利用者の山下さんは「前回も今回も非常に楽しそうに一生懸命踊っている姿を撮りたいと思ったが、実際に撮ってみると思うように撮れていなく難しいと思った」。

*** 後日談 ***
桜まつりの当日

若サポさんの3人の方からは、絆さんの一生懸命な頑張り、楽しむ姿を伝えられるように撮影する姿に熱意を感じた。終了後3人とも「すごく良かった。感動しました」と感激していました。絆さん、若サポさん、お疲れ様でした。ありがとうございました。(高橋・小山)



*完成した動画は協会HPにアップします。ご覧になってください(映像企画実行委員会より)。